

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	平成27年3月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・穏やかで家庭的な雰囲気作りに努めている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13 マコーラ第1ビル6F 604号室		
訪問調査日	平成27年3月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>富士見苑は東京湾に面し、絶景の地にあり、富士山を展望する事ができます。一年を通して温暖な南国の地にあり、四季折々の植物に恵まれている。富士見苑には認知症になっても、穏やかな生活が地域で送れるように、職員は介護支援に努めている。運営推進会議は年4回行われている。身体拘束は行っていない。職員は日頃自由な暮らしのサポートし、安全安心な生活に力を入れている。医療機関は受信・往診・訪問看護を行って頂ける。災害対策は年2回行われ、夜間を想定した訓練に心がけている。地域との連携を強化しようと考えている。週3回~4回の入浴は、利用者は楽しみにし清潔保持に心がけている。木造作りの建物は木の温もりがあり快適である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目標にし、地域生活の継続支援を考えている。	職員は利用者の心と身体の支援し、地域と繋がり、認知症になっても穏やかな生活が出来るように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加、ゴミ拾い、敬老会など、地域との関わりを増し、交流したいと考えている。	地域でのごみ拾いや、敬老会に参加している地域交流は大切。地域活動で積極的に参加し、利用者がふれあう機会を増し、交流する事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部に向けての認知症の方の理解や知識など、活動したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時や利用者が行方不明になった時等の協力や対策について意見を頂きました、ご家族から利用者支援への考えを聞き支援に生かそうと努力している。	運営推進会議は年4回行われ、市役所、地域包括センター、区長、家族の参加で行われ、行事の様子や相談、苦情などを話し合い、これからのサービスに繋がりたいと考えている。会議の参加者も増えてきている。参加者と食事をし、コミュニケーションをとっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加や社会福祉課から利用者の入居の件で見える。	運営推進会議参加や、生活保護の入所の件で社会福祉課の担当者が見える。常に市役所と事業所は、運営やサービスのあり方を模索しながら課題解決の為に支援する事が大切ではないかと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や朝礼時等で身体拘束は違反行為である事を確認し、身体拘束は行わない様にしている。	利用者の安全を確保しながら、自由な暮らしのサポートをしている。身体拘束は行っていない。利用者の様子を見守り、声掛けをしながら支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や朝礼時等で虐待をするなどのような事になるのかを説明した、職員同士で注意しあい管理者に報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明が終わった後に疑問点や分からない事があれば質問するように告げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の会話の中で、意見・要望を取り入れ、運営に反映させたい。	運営推進会議で出された率直な意見を前向きに取り入れようとしている。遠方の方にはお手紙で連絡し、意見を頂いている。訪問された時に、お願いされる方もいる。家族から受診の要望もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見を聞き運営の改善を行っている。	管理者は職員会議で職員の不足などの現状を理解し、話し合いを行っている。新人職員への指導体制ができている。職員の募集をかけ、良いサービスが出来るように考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時に評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施や法人内研修に参加をさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修に力を入れている。機会があれば交流も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望があれば遠慮なく話すよう告げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望があれば何時でも遠慮なく話すよう告げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の要望や思いをくみ取りながらの支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業等を利用者と一緒にやり関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に困りごとや要望等があれば家族に話し、一緒に解決をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば家族や知人に連絡を入れている。	利用者が逢いたい人に手紙や電話で連絡を取り、継続的な支援が出来るように心がけている。利用者は家族が訪問してくれるのを楽しみにしている。クリニックの先生が往診に見えるなど、人々と交流できる支援が大切である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽作業等を一緒に行ったり、職員が利用者の中に入り、仲間作りが行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が途切れない為に協力体制を図る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿う様に検討している。	利用者の日々の行動や表情に注意を払い、話し合っている。意思の疎通が図れない時は、家族に相談し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族に聞き把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の様子観察を行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等で検討し意見を反映している。	ユニット会議の中で、気づきアイデアを出し合い、本人がより良いサービスを受けられるように検討している。家族や関係者からの要望を取り入れ、介護計画を作っている。サービスが実行されているか、モニタリングをしながら見直しを行っている。ADLの状態にも注意を払っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録で情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば検討をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や受診を行い必要に応じて適切な医療機関に紹介をして頂いている。	かかりつけ医、田中ハートクリニックからの1ヶ月1回の受診や往診、訪問看護も行って頂いている。家族からの希望があれば、受診を増す事も出来る。職員は普段の様子に注意しながら医師との連携を深めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や受診時に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互いに情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態が低下しつつある時にご家族と今後の支援を話し合うとともに、協力医にご家族の方針を告げ、対応して頂いている。	重度化に備えて、早いうちに話し合いを行う。本人家族、医療機関、事業所と連携を取り合い、本人がどうあるべきかを話し合い、支援の方法を考えている。看取りは行っていないが、常日頃健康状態には注意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携を図り、対応を考えている。社内でのミーティングの際などに話し合いを行う様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。また、何かあれば地域役員が駆け付けてくれている。	年2回消防訓練を行っている。屋間の訓練と夜間訓練、夜を想定して火災訓練を行い、連絡網で連絡、職員で家の近い人や、同じ法人施設の助けや、地域の役員など連携を取りたいと考えている。夜は人が少ない為悩みは多い。利用者同士の助け合いも必要であると考えている。備蓄商品は用意されている。同じ法人と連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言動を行うと共に、人生の先輩として対応するようにしている。	誇りを尊重し、プライバシーや言葉使いには注意を払っている。親しき仲にも礼儀あり。友人気分になり易い関係に注意している。名前は苗字で全員呼んでいる。トイレなど、分かりづらい人の為に大きな字で張り紙をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい対応をし、選択肢を示し自己決定、出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活スタイルに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほぼ職員が決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、片づけを利用者と一緒に行っている。また、必要に応じてスプーンやホークの使用、刻み食等を提供し自力摂取が出来るようにしている。	食事は楽しみの一つ。同法人で作られた食事が届けられ、事業所で盛り付けをし、提供される。栄養バランスを考えた食事になっている。利用者の食べやすいように、刻み食の提供や、スプーン、ホークを使用する人という。利用者は食器を片づけるなど、体を動かす事も自分から進んで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて水分補給や間食を行いまた、体重が増加傾向にある方には、主食を少なめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは夕食後のみ行っている。また、その人の能力状態に応じて、一部介助・全介助・自立で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時・随時の声掛け、誘導を行い、なるべく残存機能を活用した援助をしている。	生きる意欲や自信の回復の為に、自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツで対応している。夜はパットを使用し、排泄の回数をチェックしながら、見守り・声掛けをこまめに対応している。16名全員おむつは使用していない。利用者のプライドを傷付けないように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、牛乳の提供や水分補給に努めまた、医師に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は順番に行っているが、入浴時間にご利用者からの希望があれば入浴をしている。	週に3回～4回の入浴をしている。利用者は嫌がる様子はなく、入浴を楽しみにしている。温度や時間は好みに合わせて入れる。プライバシーや羞恥心を傷つけない心がけを大切にしている。清潔保持の為に心がけ、支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息はご利用者の自由にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能書きを閲覧できるようにしました、観察をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設行事、外出、軽作業を行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や知人に連絡をし、外出をしている。買物があれば利用者と一緒にいく事もある。	家族といっしょに外出をする。職員と買い物に出かけ好きな物を買って求める。お天気が良い日、暖かいと自然に散歩に出かけたい。事業所の前を散歩。水仙や桜も咲いている。安全を確認しながら見守りを行っている。夏は出かける事が多い。五感刺激の為に職員と一緒にストレス解消をお勧めしたい。	今年は外出支援に心がける様お願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が取次を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に努め安全な環境づくりを行っている。	玄関から廊下全体がバリアフリーで、天井が高く圧迫感がない。天井はガラス入りで明るい。木の温もりがあり、居心地が良い。食堂、リビングはガラスからの日差しがたち込め、暖かい日は日向ぼっこができる。利用者は畳の上で洗濯物をたたんでいる。キッチンと食堂はカウンター式で、職員とお話ができ、会話も弾む。	玄関や食堂等の人の集まる場所に、もう少し観葉植物等があれば、気持ちが癒されるのでお願いしたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを自由に使用できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人が使用していた物を持ち込んで頂いている。	部屋は一人ひとり好みに合わせた置物や飾り物が置かれている。窓から外の様子が見える。圧迫感がない。自然素材に囲まれ室内の温度と湿度を快適に保ってくれる。木の家は耐火性に優れ、火災時の燃え上がりを抑えてくれ、安全対策にもなり、安全安心な支援に向けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置をしている。		